

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193800265		
法人名	社会福祉法人 平取福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 こころのホームふれない		
所在地	沙流郡平取町本町31番地17		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村受理日	令和5年5月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193800265_00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旬の食材を取り入れ季節感を感じて頂いております。個々の入居者のリクエストメニューにより、単独での誕生会を開催し、末永くお元気でお過ごしを願いお祝いしております。またコロナ禍であり、外出制限もありますが、非接触型施設を選択し、感染対策を講じながらドライブツアー・外食等実施しています。ホーム内で居酒屋体験をして頂いたり、エントランスでの焼肉パーティーなど、食を通しての楽しみを満喫頂いています。また今年度より、小人数ではありますが、共用型通所事業を立ち上げ、更に地域住民との交流を楽しませております。近隣施設との交流も深め、野外でのバイオリン演奏会・ハロウィン保育園児の仮装舞踊等披露頂き大変喜ばれています。当事業所の介護理念であります、「わたしらしく・あなたらしく」を目指し、個々入居者の生き方を共に考え・寄り添い、信頼関係の構築に職員一丸となって努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は木造ロジック風の平屋建てで1ユニットを有し、共用型ディサービスを併設している。ウッドデッキや広い前庭、畑を有する等自然豊かな地区に立地している。保育園や小学校、他法人の施設が隣接し、今年も園児との触れ合いや菜園での作業、地域関係者の紹介によるバイオリン演奏を堪能するなど地域交流を大切にしている。好天の時などには積極的に戸外に出て、散歩や感染対策を講じてのドライブで遠出するなど気分転換やストレス解消に向けた支援をしている。食の支援も特筆でき、利用者の嗜好や季節に応じた献立、行事食など多彩に提供し、居酒屋風の食卓で楽しい食事を提供している。職員の発案によるレクリエーションやゲーム、体操、脳トレ等を企画して利用者の事業所内余暇活動を支援している。通信には日常生活写真を掲載して家族に送付し、喜ばれている。介護計画ではICFツールを活用し生きることの全体像を示し策定している。利用者一人ひとりの生活の再構築と今を大切にする介護を基本に支援している。利用者の権利擁護と介護理念の実現に向け、真心込めて利用者の生活を支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度よりわかりやすい文言に見直しし、職員会議で全員認識の元唱和し、実践に繋げている。	理念は分かりやすい文言に見直し、事業所内要所に掲示している。毎月の職員会議で唱和し、ケア会議の際には理念について職員間で話し合い支援に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の生活支援ハウス・障害者支援施設・保育園との交流を行っている。昨年同様小学校・町内会の行事は新型コロナ蔓延防止措置等により、中止されている。	保育園児がハロウィン仮装で訪れたり、生活支援ハウス・障害者支援施設利用者と一緒に野外でバイオリン演奏を楽しんでいる。毎週土曜日開催の認知症カフェに希望する利用者が参加して交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	目的なき徘徊の入居者の理解と安全を地域住民の方にお願ひし、顔写真を制作し、見守りネットワークを活用し事故防止に努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回のペースで定期開催し、運営状況の報告と意見交換している。	町保健福祉課、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、民生委員、家族代表の出席を得て、会議を開催している。入退去状況や行事、研修、災害対策、コロナ禍関連状況等を報告し意見交換している。	議事録に事故やヒヤリハット、職員の異動等に加え、運営状況がよりモニターしやすい内容の検討や家族代表以外の家族からも運営推進会議への意見等を得る仕組み作りに期待したい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の保険福祉課・地域包括支援センターと随時、情報交換、相談している。	町担当者とは、運営に向け協力関係を築いている。今年度は保健所の指導のもと感染症対策に取り組んでいる。緊急搬送時での確認文書について消防署の助言を得ている。社会福祉協議会や地域包括支援センターとの連携に取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ、徘徊者対応で、玄関のみ施錠している。その旨家族様に説明し理解頂いています。職員会議に合わせ、身体拘束防止・虐待防止委員会を定期的に開催し、内部研修している。	身体拘束防止・虐待防止委員会を開催し、高齢者虐待防止、身体拘束適正化について話し合っている。今年度の内部研修は、スピーチロックや徘徊、認知症周辺症状等について学習している。防犯上の理由により夜間帯のみ玄関に施錠をしている。	令和6年4月から義務化となる虐待防止に関する委員会はすでに身体拘束防止・虐待防止委員会として発足している。虐待防止に関する指針の策定と共に身体拘束適正化に係る指針の見直しを検討しているため、これらの整備に期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議に合わせ、委員会を定期的に開催し内部研修している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあるが、参加には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、施設概要・重要事項説明書を利用者・家族に説明し、不安な点の解消に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日のミーティング・職員会議で情報を意見交換し共有している。運営推進会議の席で、家族代表者からの意見協力を頂いて反映している。	利用者からの「外食したい」「また行きたい」など職員への忌憚のない要望に、その都度対応出来るよう努めている。家族からは写真入りの便りを楽しみし、今後とも継続のお願いや職員への慰労の言葉が寄せられている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング・職員会議・個々職員からの提案や意見を頂き、協議し必要時反映している。	毎日の申し送り時や月1回の職員会議で職員の意見や提案等を取り上げて協議している。施設長と管理者は日常的に職員と話す機会を設け、職員の得意分野での力を活かせるようにし、また、シフト面でも相互に協力合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々のモチベーション向上に繋げるシフト作り・勤務時間を超過しないよう労働時間に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現状に不足している分野の知識を習得し、個々のスキルを向上する目的の研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員のネットワーク作り・スキルアップを目的に日高西部ケアマネ連絡協議会のメンバーに入会したが、今年度は新型コロナ蔓延防止の観点から、参加に至っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族・担当ケアマネからの基本情報をもとに、適切な介護計画を作成し、サービス提供することで信頼関係の構築に努めている。利用者の訴えに傾聴姿勢で取り組み本意を模索している。		

認知症対応型共同生活介護事業所 こころのホームふれない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の考えを尊重し、不安な事柄や要望に随時快く対応し、面会時・電話等で解消できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の必要とする支援が異なる場合、専門家として明確に問題点を言及し、本人に一番必要な支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを念頭に、時には娘になったり、孫になったりと本音を言える家族関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の中間的な位置に身を置き、各位との情報を整理・共有し、本人にとってより良き提案を家族と協議している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとっての家族同様の知人との交流を大切に対応している。	家族面会は玄関や別棟で行い、家族から利用者へ食材の差し入れの際には別棟で一緒に食事の準備を行っている。入居前に山仕事や農業経営に従事した利用者が懐かしの風景を思い出せる場所への外出支援で展示農機具の説明をしてもらうなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立せずに、みんなで遊び・学びをモットーに楽しませている。関係性に乏しい利用者の座る席等配慮し、揉め事のないよう、すぐさま仲介役に入り、楽しい雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同一法人内施設への移動の際は、移動先の施設職員との相談援助・情報提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報をもとに、ICFシートを作成し、自立支援・残存能力の活用を重視し快適な生活維持に繋げるよう介護計画を作成している。	職員が把握した利用者の希望や思い等について、カンファレンスで確認してICF作成に取り組んでいる。利用者全員が言葉で表現でき、把握した内容は介護記録に記載して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中で、生活歴を模索し、担当されていたケアマネ・利用していたサービス事業者との情報交換をしながら、生活状態の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価					
			実施状況			実施状況			次のステップに向けて期待したい内容		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日担当する職員との情報を共有し、計画作成担当者に反映できるよう、細かな生活記録をデータ入力している。			/			/		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催し、チームで意見交換しながら、現状に即したプラン作りを心がけています。			毎月の職員会議で利用者全員のカンファレンスを実施し、ICFツールを活用して生きることへの全体像をまとめ、関係者間の意見を反映させた介護計画を作成している。短期6ヶ月・長期1年を基本に、状態変化時は都度見直しを行っている。			利用者の暮らし方の意向や希望は介護計画に反映しているが、家族の意向などの把握は、訪問時や電話等の機会に把握している。今後は新たな計画策定期間に合わせ、家族の意向や希望を把握してタイムリーな内容を介護計画に反映できるよう期待したい。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間体制での、様子観察・気づき・問題行動を記録し、職員がいつでも確認できるように、記録はわかりやすく、的確に記入するよう指示されている。重要な事柄は、申し送りに記載し全職員が把握に努めている。			/			/		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活状況の変化時には、モニタリングし新たな課題に基づき支援変更し、生活の質を向上できるプラン作りに努めている。			/			/		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の生活支援ハウスの協力により、サロンへの参加をし、近隣住民と交流を深めている。			/			/		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の理解のもと、平取町国民健康保険病院の医師による定期訪問診療を行っている。また物忘れ外来・循環器外来の定期受診も家族依頼があれば、受診支援し、情報説明を都度担当医に報告している。			協力医による月1回の訪問診療を行っている。眼科は協力医療機関で診断している。町内外への通院は家族対応を基本とし、町内医療機関の受診については事情により事業所対応で行う時がある。看護師職員による、健康管理を行っている。					
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度より看護師1名が配置され加算も取得している。専門的分野での問題点など、相談しやすい環境にあり、適切な受診に繋がっている。利用者も看護師からの助言に安心されている。			/			/		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期診療されていることもあり、医師・看護師との関係性は相談しやすい環境である。また今年度より協力病院に地域連携室ができ、更に情報交換ができるようになった。協力病院以外への入院歴はない。			/			/		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の判断に基づき、本人・家族の思いを第一に考え、事業所として可能な最大限の支援を説明しながら、少しでも長く住み慣れた環境での生活を維持している。また不安なく暮らせる支援を職員間で徹底している。	利用契約時に「急変時の対応における意思の確認書」を説明し同意を得ている。個人別「救急対応表」を用いて家族と合意形成を図っている。主治医の判断に基づき関係者間で話し合い今後の方針を取り決め対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、素早く対応できるよう全職員に周知している。また救急要請の際、搬送者の状態をまとめた救急対応表を平取消防に提出し、情報を共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行うとともに、町の防災計画に基づいた避難場所の確認等について、職員間で知識を共有できるよう職員会議で周知する。	令和4年6月に日中想定の方針の火災避難訓練を消防署の参加を得て実施し、10月に夜間想定の方針の火災避難訓練を行い、地域協力者の参加を見送っている。災害備蓄品は事業所と法人内の事業所とで備蓄管理をしている。自然災害発生時にむけた業務継続計画(BCP)の策定を行っている。	今年度、感染対策により地震想定の方針の訓練がやむなく中止となり、次年度に実施する予定である。地震発生時に想定される課題の抽出も含めた中で、訓練実施に向けてなど、更なる対策の強化に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に誤解の招く言動も含め、話し方等対応には都度確認している。ハラスメントの内部研修等、職員会議の題材に挙げている。	利用者への接遇や対応については、職員会議の際の事例検討時に全体で確認討議する機会があり、職員間で注意し合える環境にある。個人記録類は保管場所や取扱を定めて適切に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事では食べたいもの・セレクトメニューでの意思決定や行きたい場所等、思いを伝達できるよう日々の会話の中で、コミュニケーションを図っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活リズムにあった支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品の残量等気にしながら、訴えがあればすぐ購入して補充している。町内の洋品店への買い物同行し、来てみたい衣服を選択して頂いています。また入浴の準備では、利用者に着替えの服を選んでもらっている。		

認知症対応型共同生活介護事業所 こころのホームふれない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日利用者の負担にならない程度に、配膳準備・調理・あと片付けをお手伝いされている。毎週木曜日は調理の日で敢えてメニューを選定せず自由に食を楽しむ機会を作っています。また住民・家族からの旬の食材を提供された際は、新鮮なうちに調理し季節感を感じて頂いています。	給食委員会で献立し、週に一度は利用者と一緒に調理する機会を設けている。利用者の好みの料理や畑で収穫した野菜類も食卓に上っている。行事食も多彩で、出先での夕食や敬老会でのホテル会食、「居酒屋こころ」はメニュー表から全てが手作りで、大いに賑わい楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食委員会を設置し、毎月個々の栄養状況を確認・検討しています。水分量は毎日PC上で入力し、水分確保をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方には口頭で促し、介助が必要な方には支援している。口腔体操を実施し、口腔内の衛生には気を付けた対応をしている。歯科教室実施。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を維持していく上で、下肢筋力の低下防止に努めている。排泄間隔が遠い利用者には、声掛け誘導を促し、定期的な排泄を心掛けている。	歩行器使用の利用者にはベッド端座位通知音で、速やかな誘導介助でトイレでの排泄ができるようにしたり、排便準備の整った利用者には前傾姿勢確保の介助バー付きトイレ利用を居室移動も含めて対応した結果、自立排泄に至った事例があるなど、自立排泄に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師を中心に、排便コントロールをし、排便（ナース）をなくしていく努力をしている。主治医と下剤の種類の変更等訪問診療時に検討している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々利用者の入浴意欲を尊重し、タイミングを日々合わせている。週2回の入浴を確保している。浴槽から上がるタイミングも個々利用者に合わせて、爽快感を感じて頂いている。	入浴は月・火・木・金曜日を基本に、利用者の状態に応じて、その都度対応している。入浴のタイミングや湯温なども利用者の意向に応じている。入浴後の利用者の「良い風呂だった」との感想を受けて他の利用者が前向きに入る場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入眠時間を把握し、安眠阻害の無いよう工夫している。眠剤服用者には、都度確認して与薬している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員がすべて行っている。与薬するまで職員2名体制で誤薬の無いよう確認し、服薬時は名前と日付を本人に確認作業して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作り等、外気にふれる作業を好まれる利用者に応じ菜園をしている。また天気の良い日は、積極的に外部散歩・間食を楽しませている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々利用者の希望に添えるよう外出の機会を増やしている。またホーム外の近隣住民とのふれあいの場を増やしている。	事業所周辺での散歩やウッドデッキでのティータイムを兼ねた外気浴、ドライブで占冠の道の駅の立ち寄り、目的地の富良野花見ツアーでのトラクター試乗で盛り上がり、平取ダム見学、ニセウ・エコランドでの外カフェなど多彩な外出支援を行っている。畑作業をしたり、それをテラスで監督したりと利用者同士役割分担して楽しんでいる。コロナ禍の中、感染対策を講じ、気分転換やストレスの発散など生き生きと過ごせる支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は個々利用者が所持することは推奨していないが、所持することで安心される目的で所持している方もいます。また事務所に預けている方は、台帳を作成し、職員が収支を管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状の代筆をしたり、自由に電話を掛けられるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の装飾を心掛け、季節感を感じて頂いています。トイレの場所や自室が判らなく混乱されないように、入り口に目印をつけ対応している。	木の温もりが感じられる建物でダイニングルームに対面式キッチンを設備し、食事作りの音や香りが感じられる。リビングには全員が座れるソファコーナーがあり、好天時にはウッドデッキにソファを移動し寛いでいる。思い出の写真コーナーは利用者に人気がある。今は利用者の作品の桜のちぎり絵を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々利用者の要望に応じた過ごし方を一番に配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの調度品・身の回りの品など、自宅のお部屋に近い状態で、持ち込みを認めている。	居室入り口には花の名前をモチーフにした木製の表札が飾られ自室と分かるようにしている。電動低床ベット・クローゼット・洗面台・照明・防災カーテン等が設置されている。馴染みの家具や調度品が持ち込まれ、気の合う利用者同士が会話を弾ませるなど、自由に思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	起き上がりが大変な利用者には、ご自身にあった補助サークルを設置したり、歩行困難な利用者には、すぐ排泄動作に移行できるよう、センサーマットを設置し対応している。		